

F.R.C.S.

(iii) Anderson: Descriptive and Historical Catalogue of a Collection of Japan, 1886.

(iv) 佐野みどり「病草紙考」『図説日本医事文化史料集成』三省堂、第一巻、一九七八年、二八五～二九二

(順天堂大学医学部医史学研究室)

豊後府内病院の所在位置と規模について

東野利夫

本邦で初めて洋式の病院が開設され診療が行われたのは弘治、永禄、元亀、天正の頃、一五五七年から一五八〇年ごろの約二十五年ばかりで、その大凡の事情は当時のイエズス会士の通信書簡により窺い知ること出来るが日本側の史料は皆無である。

その府内病院の位置については昭和十九年(一九四四)海老沢有道氏が別府市の日名子太郎氏蔵の豊後府内古地図、天保五年(一八三四)九月二十四日(写)の中に記載されている「デウス堂」という個所に注目され府内病院もその隣接地にあったのではないかと推定されていた。

筆者は昭和六十年(一九八五)大分市在住の高山家に伝わる二つの大支時代古地図(写)を考証する機会に恵まれた。

その一つは前記した海老沢有道氏が引用されたものと内容は全く同一のもので天保五年（一八三四）九月二十四日（旧暦）の系統のものであった。

しかしもう一つの方の古地図はそれより溯ること五年、文政十二年（一八二九）五月辰の日（旧暦）に模写された別系統のもので、海老沢氏の引用された天保年間のもより細部にわたって描写がこまやかで一部地形の異るところもある。筆者はこの文政の古地図（写）を現代の大分市の市街図と拡大重合し、当時の町名や現存する社寺などの位置関係などを照合調査し当時の府内病院の位置を推測した。

また当時、府内病院を実質的に創設しその運営と診療に当ったポルトガルの貿易商人での中にイエズス会の修道士となり天草で死去したルイス・デ・アルメイダの通信書簡をはじめ当時のイエズス会士たちの通信書簡を比較検討しながら府内病院の増築、発展から衰退にいたる経路をたどり、府内病院の規模について史的考証を行った。

新しく考証した古地図については文政十二年（一八二九）五月辰の日（旧暦）、牧在という人がそれ以前に描写

された豊後府内の古地図を描写し、それを府内藩士であった渡辺瀧右衛門が所蔵していたものが旧家に伝承され、それを昭和十五年（一九四〇）四月中旬、高山家の先代、高山英明氏（当時大分市長）が自ら筆写されたものである。

なお昭和六十年（一九八五）九月、大分市の旧家秘蔵の大支時代の古地図が発見され話題となったが、大分市史編さん室の調査では昭和十五年四月高山英明氏が筆写された古図と内容がほぼ一致しているので同系統の古図であることが推測された。

（福岡市）